平成 24 年 3 月 23 日

環境省報道発表「一般廃棄物の排出及び処理状況等（平成 22 年度）」

【松山市の一般廃棄物処理事業実態調査の結果（環境省調査）】

1人1日当たりごみ排出量839．1g（全国平均 975g/人日）
５年連続　*人口50万人以上の都市で最少*

ごみの排出量は、全国的に近年減少傾向を続けており、大量生産大量消費型の社会からごみが発生しにくい循環型社会への転換が図られてきていると思われます。本市では、環境省が調査している一般廃棄物処理事業実態調査において５年連続で１人１日当たりのごみ排出量が人口 50 万人以上の都市の中で最少となっており、これは、景気の影響及び循環型社会への転換とともに、本市のごみ減量施策に対する市民の皆さまのご理解とご協力によるものであると言えます。

【松山市の経年結果】

年　度	総排出量	１人１日当たり排出量	順位	考　　察
平成 17 年度	198,165 t	1,056 g/日	3 位	紙類の持ち去り行為による及び北条・中島の分別区分変更により排出量が減少しました。
平成 18 年度	170,634 t	908.7 g/日	**1 位**	家庭系ごみの分別区分の変更により家庭から排出される可燃ごみが減少し、リサイクル率が向上しました。また、事業系ごみの受入態勢が厳格化され、排出量が大幅に減少しました。
平成 19 年度	159,888 t	849.2 g/日	**1 位**	持ち去り行為による紙類の回収量減少が大きな要因ですが、ほぼすべてのごみ種において排出量が減少傾向です。
平成 20 年度	154,348 t	822.0 g/日	**1 位**	持ち去り行為による紙類の回収量減少に加え、ほぼすべてのごみ種において、前年度より減量が図られました。
平成 21 年度	160,013 t	850.9 g/日	**1 位**	条例を改正し、持ち去り行為を禁止したことにより、紙類や金物・ガラス類の回収量が増加しました。一方、可燃ごみ等の排出量は引き続き減少傾向です。
平成 22 年度	158,008 t	839.1 g/日	**1 位**	持ち去り行為の減少に伴い、紙類の回収量は昨年より微増です。可燃ごみや事業系ごみの排出量については、依然として減少傾向です。

【各部門のベスト３】

	人口 10 万人未満	人口 10 万人以上 50 万人未満	人口 50 万人以上
リデュース（１人１日当たりのごみ排出量） 全国：975 ｸﾞﾗﾑ/人日	1. 奈良県　野迫川村 241.5ｸﾞﾗﾑ/人日 2. 徳島県　神山町 249.8ｸﾞﾗﾑ/人日 3. 福島県　葛尾村 273.5ｸﾞﾗﾑ/人日	1. 静岡県　掛川市 642.5ｸﾞﾗﾑ/人日 2. 東京都　小金井市 653.9ｸﾞﾗﾑ/人日 3. 長野県　佐久市 689.7ｸﾞﾗﾑ/人日	**1. 愛媛県　松山市 839.1ｸﾞﾗﾑ/人日** 2. 広島県　広島市 841.8ｸﾞﾗﾑ/人日 3. 東京都　八王子市 844.6ｸﾞﾗﾑ/人日